

## 環境保全へのさまざまな活動

環境負荷を低減し、持続可能な社会をつくるのは一人ひとりの行動から。  
そんな思いから地道な活動の輪を広げています。

### チーム・マイナス6%\*の取り組み

2005年10月、コスモ石油グループは日本政府が推進する地球温暖化防止活動「チーム・マイナス6%」に参加、2007年からは「コスモ チーム・マイナス6%」としてコスモ石油グループを挙げて取り組んでいます。

独自の取り組みとして、グループ社員を対象に「個人向けコスモチーム・マイナス6%」を展開しています。政府が開設する「チーム・マイナス6%」のホームページにグループ内で運用するグループウェアを通じてアクセスし、参加者を募りました。

告知は社内ポータルサイト「COSMO WISE PLACE」や社内報、ならびに各事業所の会議でも随時取り上げ、活動への参加呼びかけを行いました。その結果、「チーム・マイナス6%」へ3,775名、さらに、社員個々の自発的意思として、自宅でのシャワーの時間を短くしたり、自家用車のアイドリングストップを行う活動「1人1日1kg削減 私のチャレンジ宣言」に3,532名の参加がありました。

今後とも一人ひとりが地球温暖化問題を意識し、事業所だけでなく、家庭においても「コスモ チーム・マイナス6%」を実践し、広く日常生活においても資源を大切に使うよう活動の継続に努めています。

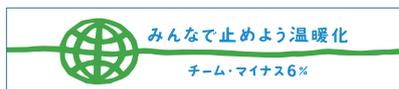
\* 京都議定書で定められている日本の温室効果ガスの排出の削減目標6%を実現するため、日本政府が推進している国民的プロジェクト。コスモ石油グループは2005年10月に参加しています。



「コスモ チーム・マイナス6%」データベースのサイト画像  
参加者が増えると木が成長する仕組みになっています。



社内のポータルサイト「COSMO WISE PLACE」



### 「オフィスクリーン活動」

コスモ石油グループでは日々、何気なくオフィスで使う備品や照明といった資源やエネルギーの3R (Reduce・Reuse・Recycle)を、“オフィスクリーン活動”として、グループを挙げ進めています。2007年度に引き続き、2008年度も「コスモ チーム・マイナス6%」の一環として、データベースを活用し進捗状況を管理しながら展開しています。



「オフィスクリーン」データベース

	第2次連結中期環境計画*1 2007年度実績		第3次連結中期環境計画*2 2008年度目標	
	コスモ石油 03年度比	関係会社 04年度比	コスモ石油 第2次中計比	関係会社 第2次中計比
コピー用紙削減	▲ 5%	+ 10%	▲4.8%	▲4.5%
社有車燃料削減	▲14%	+ 6%	▲5.0%	▲4.8%
オフィス電力削減	▲ 10%	+ 9%	▲4.9%	▲1.7%*3

\*1 第2次連結中期環境計画では、コスモ石油は2003年度を基準年とし、関係会社は2004年度を基準年としています。

2007年度実績には一部の会社が追加されています。また、基準年度実績値には一部推計値を含んでいます。

\*2 第3次連結中期環境計画では、第2次連結中期環境計画(2005～2007年度)実績の平均値を基準としています。

\*3 第3次連結中期環境計画の関係会社のオフィス電力削減目標値は特定の会社のオフィス移転が2007年度に発生したため、その実績の傾向を考慮したものです。

詳細情報●オフィスクリーン活動の目標と実績

web <http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/plan.html#officeclean>

### 取引先とともに：グリーン購入

#### グリーン購入

グリーン購入品目は、一般的に対象とされる事務用品だけでなく、触媒や容器、建築資材にいたるまで幅広く自主基準を設定し、順次、品目の拡大や基準のレベルアップを図っています。2008年度は「チーム・マイナス6%」活動に絡めて、消耗品のグリーン購入比率100%達成を目標としています。

#### サプライヤーのグリーン化

コスモ石油グループの環境経営方針にご賛同いただき、また、環境コンシャスな経営を採用いただけるように、グリーンサプライヤーの自主基準を策定し、環境対応に積極的なサプライヤーとの取引を優先しています。さらに未対応サプライヤーに対しては、グリーンサプライヤー化に向けたボトムアップを重点的に行っています。

## 環境負荷の低い次世代エネルギーの開発

### バイオガソリン(バイオETBE配合)の流通実証事業

石油業界は、経済産業省のバイオマス由来燃料導入事業として、2007年4月から首都圏50ヵ所のSS（うちコスモ石油SSは6ヵ所）において、バイオETBEを配合したレギュラーガソリン「バイオガソリン(バイオETBE配合)」の試験販売(流通実証事業)を開始、2008年度には仙台や大阪も含めた全国で100ヵ所(うちコスモ石油SSは9ヵ所)に拡大しました。バイオガソリン(バイオETBE配合)とは、トウモロコシやサトウキビなどの植物を原料とするバイオエタノールと石油系ガスのひとつであるイソブテンから合成した「バイオETBE」を配合したレギュラーガソリンで、従来のレギュラーガソリンとまったく同じ使い方ができます。バイオガソリンの販売は、日本が京都議定書で世界に対して公約した温室効果ガスの削減目標に向けて、日本政府の設定した目標に石油業界として協力するために行うものです。2010年度には本格的に導入する予定です。

#### ◆バイオガソリン取扱いSS

セルフステーション東豊中	セルフピュア北厚木
セルフピュア上鶴間	セルフピュア浦和常盤町
セルフピュア北本深井	セルフピュア上里七本木
セルフピュア長作	セルフピュア瑞穂
セルフピュアかしわ台	

関連情報●サービスステーション バイオガソリンについて

web <http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/biofuel/index.htm>

## 環境会計

詳細情報●環境会計の詳細

web [http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/data/ev\\_accounting.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/data/ev_accounting.html)

コスモ石油グループは、環境保全を効果的に実施するため、2000年度より環境会計の集計を開始し、「環境保全コスト」「環境保全効果」「経済効果」を把握しています。

### [2007年度の集計結果の概要]

#### 対象範囲

コスモ石油が所有する4製油所、四日市霞発電所ならびに本社、各支店、中央研究所および関係会社のコスモ松山石油、コスモ石油ブルリカンを対象範囲としています。

#### 概要

2007年度の環境保全コストは事業エリア内コスト、上・下流コストがほとんどを占め、費用額949億円、投資額28億円でした。これらによる経済効果は10億円となります。また、長期にわたる環境保全投資により、2007年度末の年度末取得価額は1,769億円に達しています。

## GTL

コスモ石油は、民間5社と「日本GTL技術研究組合」を設立し、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)と共同で、GTL技術\*の実証研究を開始しました。GTL技術によって製造された液体燃料は、環境に優しいクリーン燃料として期待されています。本研究を通じて、先行する石油メジャーに対して競争力のある技術を開発し、将来エネルギーの安定供給と地球環境との調和の実現に向け取り組んでいきます。

\* GTL (Gas To Liquids) 技術：天然ガスを合成ガス(COとH<sub>2</sub>の混合ガス)に化学的に変換した後、合成ガスからFT (Fischer-Tropsch) 合成反応により液体燃料に転換する技術。

関連情報●天然ガス液体燃料化技術の開発

web <http://www.cosmo-oil.co.jp/rd/energy02.html>

## 水素・燃料電池

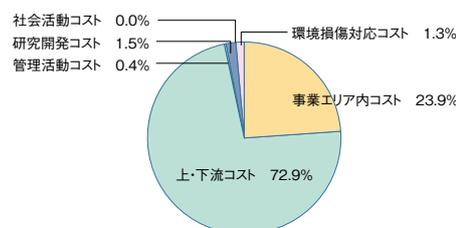
2005年度より一般家庭でのLPG定置用燃料電池の実証試験を開始し、2007年度からは灯油仕様燃料電池の実証試験を開始しました。一般家庭での定置用燃料電池導入時の省エネルギー性や経済性を検討し、石油系燃料電池の実用化および技術開発のために活用していきます。

また、2002年度より燃料電池車への水素充填技術開発と水素製造技術を開発するため、JHFC横浜・大黒水素ステーションの運営を開始し、将来の水素供給インフラの検討を行ってきました。2005年度から2007年度まで、(財)石油産業活性化センターの「将来型燃料高度利用研究開発」に参加し、SSに併設可能な小型・高効率水素製造装置に関する技術を構築しました。

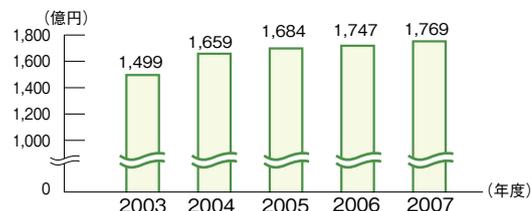
関連情報●水素製造技術の開発

web <http://www.cosmo-oil.co.jp/rd/energy01.html>

#### ◆環境保全コスト(費用額)



#### ◆年度末取得価額の推移



※2003～2006年度は、上・下流コストと事業エリア内コスト見直しのため、過年度修正を行いました。